イセエビ類の2稀種について 1)

挿図 1~5

久保伊津男

(東京水産大学)

Two Rare Species of Palinurid Lobster

With 5 Text-figures

Itsuo KUBO

(Tokyo University of Fisheries)

筆者は最近イセエビ類の1新種ワグエビ, *Palinustus waguensis* KUBO とケブカイセエビを蒐集することができた。

ワグエビは三重県志摩郡和具沿岸でエビ網にかかった雄, 体長99mmの1個体で, 同県立高等水産学校の湖城重仁氏が同県立大学水産学部の椎野季雄学部長に届け, 同学部長から昭和35年11月筆者に種の査定を依頼されたものである。標本は初めからアルコール固定で, 眼の角膜部が黒褐色であったほかは全体が淡黄色で生時の体色は全く残されていなかった。採集水深は不詳である。この類は珍しい種類で現在世界的にも本種を加えてわずかに3種類にすぎない。本種以外の他の2種のうち1種は *Palinustus truncatus* A. MILNE-EDWARDS である。これはカリビア海 (Caribbean Sea) に分布している。最初1880年 A. MILNE-EDWARDS (Bull. Mus. Comp. Zool., Vol. 8, p. 66) によって知られ, のち GRUVEL (1911) は Venezuela のものについて記載している。他の1種は *Palinustus mossambicus* BARNARD である。この種類ははじめ BARNARD (Trans. Roy. Soc. S. Afr., Vol. 13, P. 126, 1926) がアフリカ東岸のポルトガル領の 25°S, 33°10'E から採集している。採集水深 406m, 体長 95mm の雄 1 個体である。そのうち Snellius 号の探検 (HOLTHUIS, 1929) によって Mindanao 島の西端, Basilan 海峡 (6°58'N, 121°52.5, E, 水深 72~88m) から体長 49~90mm の雌 4 個体および雄 1 個体が採集されている (HOLTHUIS, 1946)。

ケブカイセエビ, *Panulirus homarus* LINNAEUS は御前崎 (静岡県) で採集されたもので同県加茂郡下田町白浜の同県水産試験場伊豆分場に飼育してあったものを同場長五十嵐正治氏の好意によって昭和36年12月18日に提供されたもので, 雌, 雄各 1 個体である。その体長は雌 151mm, 雄 121mm である。

本文に入る前に種々御好意をいただいた上記の諸氏のほか前記伊豆分場の野中忠氏に対して深く謝意を表する。またここに使用した写真はすべて東京水産大学資源学教室の高木

1) 本篇の欧文報告は J. Tokyo Univ. Fish., 49 (1) 63~71 [東京水産大学研究報告, 49 (1) 63~71] に掲載されている。

和徳講師が撮影したものであることを付記するとともに、同氏に対して厚く感謝する。

(1) ワグエビ (新和名)

Palinustus waguensis KUBO

第1触角節背板は長三角形状で狭く、発音器のレールは顕著である(図1,左).同板の後方,眼柄の直前には左右に各2棘とその間に微小な2棘がほぼ等間隔に並んだ1横列を有する。

頭胸甲はほぼ五角筒状で,側稜はやや顕著であるが,背正中稜は側稜よりも不顕著で稜の確然性は低い。同甲の長さは幅(頸溝より後方における左右両側稜間の間隔)の約1.5

Fig 1 *Palinustus waguensis* KUBO male, body-length 99mm (Carapacelength 33mm). Left, dorsal view; right, ventral view. ワグエビ, 雄, 体長 99mm (頭胸甲長 33mm)。左図, 背面; 右図, 腹面。

倍, 腹部長の3分の1である。頸溝の前, 後部には多数の棘がみられるが, ことに前部の

棘は後部のものよりも大きい。頭胸甲の表面にはやや密に短い粗毛がみられる(図1)。眼上棘の前端は肉眼的には截形で、内縁に小さい3棘を有し外縁は無棘である(図2, A)。眼上棘の後方には鋭く尖った4棘が存在し、前方の棘が最大で後方のものほど小さい。頭胸甲の背面の前縁には右側に先端の2又した小さい1棘、左側に小さい2棘を具えている。頸溝前部の背正中部にはやや大きな3対の棘と3対の小棘が存在する。頭胸甲の前側角部にはやや大きな1棘があり、それから斜内後方に2棘がある。

口前部の前縁には棘を有しない。第4～第6胸節腹板には各1対の小棘、第7胸節の腹板には各1個の小棘がある。

腹部長は頭胸甲長のほとんど2倍である。第2腹節～第6腹節の背面にはほぼ中央に各1条の横溝があり粗毛を有する。第2腹節～第5腹節背面の正中線には低い隆起がみられ、第5腹節のものはきわめて低い。第6腹節の背面には特殊な彫刻がある。同節の後側

Fig. 2 *Palinustus waguensis* KUBO male, bodylength 99mm. A. dorsal view of the anterior portion of cephalo-thorax (left half, the broken line indicates the median line of the body. ca. $\times 5$) B. endopodite of the mandible, $\times 10$. ワグエビ, 雄, 体長 99mm. A, 頭胸甲前部左半(背面, 約 $\times 5$, 破線は体の正中軸)。B, 大顎の内肢, $\times 10$ 。

隅には各1個の小棘があり、後縁にはほぼ等間隔に4小棘が存在する(図3, C)。第2腹節～第6腹節の側甲の下縁には前後に大小2棘を有し、前棘が後棘よりも大である(図3, C～E)。第2腹節側甲の下縁の前半部には4個の小棘を有する。第1腹節および第2腹節の腹板には大きさ不揃の小さな8棘、第3～第5腹節のそれには4棘を有し、中の2棘は小さい。第6腹節腹板には左右、各側に5棘、中央に小さな1棘を有する。各腹節の腹板上の棘はすべて1横列上に生じている。第6腹節腹板上のものは内側のものほど次第に大きい。尾節長は頭胸甲長の0.6倍である。

第1触角柄は長く、その長さは頭胸甲長の1.9倍である(図1, 左)。同触角柄の各節長の比は第1, 第2, 第3節の順にそれぞれ3.5, 1, 1.7である。鞭状部はほとんど等長の内外2鞭からなり、その長さは第2柄節よりも多少長い。内鞭は外鞭よりもやや細い。第2触角は強壯である。柄部の3節はほぼ等長である。発音器は鈎状で小さい(図1, 左)。眼径は頭胸甲長のほぼ10分の2である。

Fig. 3 *Palinustus waguensis* KUBO male, body-length 99mm (length of abdomen 66mm). A, ventral view of cephalothorax. B, anterior portion of carapace and stridulating organ. C, dorsal view of abdomen. D, ventral view of abdomen. E, side view of abdomen. ワグエビ, 雄, 体長 99mm (腹部長 66mm)。A, 頭胸部腹面。B, 頭胸甲前部および発音器。C, 腹部背面。D, 腹部腹面。E, 腹部側面。

大顎の内肢はほぼ等長の2節である(図2, B)。第1～第3顎脚はすべてよく発達した

外肢を具え、外肢の遠半は鞭状である。第3顎脚は脚状で7節からなり、頭胸甲よりも少し長く、やや長い粗毛を有する。長節は末端3節を合せた長さとはほぼ等しく、下縁に10棘内外の小棘を有する。第1～第4*の各歩脚はほぼ同様な形態で、第3顎脚と同様にやや長い粗毛を有する。長節の下縁および上縁にはほぼ等間隔に配列された12～13個の小棘を有し、最前方の棘は大きく各縁の前端に生じている。腕節の上縁および下縁の前端には各1個の小棘を有する(図1, 右)。

第5胸脚基部の生殖孔は後内方へ突出し、後方に肉質花卉状の突起を有する。

表 1. 体各部分の測定値(長さの単位mm)

体 長	99.0	第3顎脚長	37.0
頭 胸 甲 長	32.0	第1胸脚長	69.0
頭 胸 甲 幅	22.0	第2胸脚長	83.0
腹 部 長	66.0	第3胸脚長	82.0
尾 節 長	19.5	第4胸脚長	82.5

本種は *Palinustus truncatus* A. MILNE-EDWARDS (1880) (GRUVEL, 1911, pp. 18～20, figs. 8, a～d, Pl. II, figs. 2 and 3) および *P. mossambicus* BARNARD (1926) (BARNARD, 1950, pp. 545～546, figs. 102, a, b) にきわめて類似した種類であるが、これらの両種から表2および表3に示したとおり容易に区別することができる。これら両種との共通の相違点は眼上棘の前縁に鋸歯状に並んだ小棘がなく、同縁が拡大鏡でみるときわめてわずかに鈍鋸歯状であるが肉眼ではほとんど単なる截形であることである。

表 2. 本種と *P. truncatus* との比較

項 目	本 種	<i>P. truncatus</i>
1. 頭胸甲の背面前縁	2棘と先端が2又した1棘を有する	中央に1棘とその左右に各5～6棘の小棘を有する
2. 眼 上 棘	先端縁は単なる截形で小棘を有しない	先端縁は截形であるが、5個の鋸歯状にならんだ小棘を有する
3. 口 前 部	前側角には棘を有しない; 前縁の中央には3個の非常に小さい粒状の隆起がある	前側角には各1個の棘がある; 前縁の中央には3個の小棘がある
4. 第3腹節側甲	後下縁には鋸歯状に並んだ小棘を有しない	後下縁に鋸歯状に並んだ4個の小棘を有する

* 第5脚は基部から折損している。

表 3. 本種と *P. mossambicus* との比較

項 目	本 種	<i>P. mossambicus</i>
1. 頭胸甲の背面前縁	2棘と先端が2又した1棘を有する	前縁をほぼ3等分するようにやや大きな2棘を有するか、あるいは全く棘を有しない
2. 眼 上 棘	先端縁は単なる截形で小棘を有しない	先端縁に鋸歯状に並んだ7~8棘を具えている
3. 口 前 部	前縁中央には3個の非常に小さな粒状の隆起がある	前縁には6個の鋸歯状の小棘を有する

表 4. 本種と Basilan 海峡産 *P. mossambicus* との比較

項 目	本 種	<i>P. mossambicus</i>
1. 眼柄中央直前の棘	6棘で、中央の2棘は小さい	4棘で等大
2. 頭胸甲背面の前縁	右側に先端の2又した1棘、左側に2棘を有する	右側に4棘、左側に3棘 ¹⁾ 、4~6棘 ²⁾
3. 眼上棘の前端縁	拡大鏡でみるときわめてわずかに鈍鋸歯状であるが、肉眼ではほとんど単なる截形である	鈍鋸歯状である

1), HOLTHUIS 1946, Pl. 7, fig. f による。

2), HOLTHUIS 1946, p. 117 による。

本種は BARNARD のポルトガル領東アフリカのものよりも Snellius 号によって Basilan 海峡から採集されたものに類似している。後者とは重要な特徴のほとんどの点においてよく一致しているが、わずかに表 4 にあげた 3 点において相違している。しかしこれらの点は軽微な相違にすぎないのでこれらの両者は同一種に属するものかも知れない。

(2) ケブカイセエビ

Panulirus homarus (LINNAEUS)

本種が本邦から採集された確実なものは、HOLTHUIS (1946, p.134) によると DE HAAN (1841), HERKLOTS (1861), および DOFLEIN (1906) の3者のようである。その後は本種がわが国から採集された記録はない。筆者は前記のように昭和36年12月18日静岡県水産試験場伊豆分場に飼育されているものを入手する機会を得、種々観察することができた。その結果は次記のとおりであって調べた標本はたしかに本種に属することが明らかであ

る。

第1触角節背板は正四角形で、その前縁近くに1対およびほぼ中ほどに1対、計2対のやや大きな棘を有し、この2対の棘の前後の間に小さな3棘（他の1個体では前後2対の4棘）を有する（図5、左）。頭胸甲の長さは、体長151mmの雌で幅のほぼ1.25倍である。腹節背面の横溝は中央部で中断されていず、その前縁は波状である。第2～第5腹節側甲の大棘の後方の基部には鋸歯状に並んだ3～4棘を有する（図5、右）。口前部には中央、各側角に各1棘、計3棘を有する。大顎は3節からなる内肢を有する。第1、第2顎脚は外肢を有する。第3顎脚は外肢を有しない。

第1触角背板の後縁、第2触角柄第1節基部後方の頭胸甲前縁などは明るい青色である。腹部背面は一面に小白点が散在し梨地状である（図5、右）。第1触角は柄部、鞭状部ともに白色帯を有する（図5、左）。

ここに取扱った標本は DE HAAN が *Fauna Japonica* に *Palinurus burgeri* とし

Fig. 4 *Panulirus homarus* (LINNAEUS), male, body-length 151mm (length of carapace 51mm), Left, dorsal view. Right, ventral view. ケブカイセエビ, 雄, 体長 151mm (頭胸甲長 51mm)。左, 背面。右, 腹面。

Fig. 5 *Panulirus homarus* (LINNAEUS), male, the same individual as Fig 4.
Left, dorsal view of head. Right, dorsal view of abdomen. ケブカイセエビ,
雄, 第4図に同じ。左, 頭部背面。右, 腹部背面。

たものの記載および図 (Pls. 43~44, fig. 1) にきわめてよく一致している。

文 献

- (1) BARNARD, K. H. 1950 Descriptive catalogue of South African Decapod Crustacea (Crabs and Shrimps). Ann. South Afr. Mus., Vol. 38, 1-864.
- (2) GRUVEL, A. 1911 Contribution à l'étude générale systématique et économique des Palinuridae. Ann. Inst. Océanog. Monaco, 3 (4) 5-56, Pls. 1-6.
- (3) HAAN, W. DE. 1833-'50 Fauna Japonica, pp. i-xvii, i-xxxi 1-244, Pls. 1-55, A-Q, 1, 2.
- (4) HOLTHUIS, L. B. 1946 Biological results of the Snellius Expedition. XIV. The Decapoda Macrura of the Snellius Expedition. I. The Stenopodidae, Nephropsidae, Scyllaridae, and Palinuridae. Temminckia, Vol. 7, 1-178, Pls. 1-11.

- (5) HOLTHUIS, L. B. 1956 Proposed addition to the "Official list of generic names in zoology" of the names of the names of twentyfive genera of *Macrura Reptantia* (Class Crustacea, order Decapoda, including proposals for the use of the plenary powers..... Bull. Zool. Nomenclature, 12 (4)107-119.
- (6) KUBO, I. 1954 Systematic studies on the Japanese Macrurous Decapod crustacea 3. On the Palinurid lobsters. J. Tokyo Univ. Fish., 41 (1) 95-105, Pls. 3-6.
- (7) MAN, J. G. DE. 1916 The Decapoda of the Siboga Expedition. Part III. Eryonidae, Palinuridae, Scyllaridae and Nephropsidae. Siboga Exped. Monog., 39 a, pp. 1-122, Pls. 1-4.